

中学生ワークショップの結果について

- 1 実施日 令和元年10月27日（日） 13時～16時30分
- 2 会場 福島テルサ
- 3 参加者 中学生15名
- 4 テーマ 「将来も住み続けたい（住みたい）と思う福島県の将来の姿」
- 5 内容 総合計画の意味や本県の現状について説明を受けた後、3グループに分かれワークショップを行い、テーマに対する提言をとりまとめて発表を行った。
- 6 提言内容（将来の姿）
 - (1) グループ1
 - ・いろいろな人が来てくれる福島県
 - ・安全な暮らしができる福島県
 - ・子育てがしやすい環境がある福島県
 - ・多くの人に伝え・伝わる福島県
 - (2) グループ2
 - ・他県に福島県のことを知ってもらい、もっと活気のある県
 - (3) グループ3
 - ・交流が広がり理解が深まる
 - ・教育環境が向上し子育てがしやすくなる
 - ・元気な高齢者が活躍している
 - ・福島ならではの活動
- 7 主な発言
 - ・地域ごとのつながりを復活させたい。
 - ・医療サービスを確保して元気な高齢者を増やす。
 - ・日本酒や桃など福島ならではの発信が大切。
 - ・世代を超えて交流できる福島にしたい。
 - ・私たちが福島県をより良くしていきたい。 など

(グループワーク)



(発表)



小学生ワークショップの結果について

- 1 実施日 令和元年11月24日（日） 11時～15時30分
- 2 会場 郡山商工会議所会館
- 3 参加者 小学生11名
- 4 テーマ 「将来も住み続けたい（住みたい）と思う福島県の未来の姿」
- 5 内容 本県の現状について説明を受けた後、2グループに分かれワークショップを行い、テーマに対する意見をとりまとめた。
- 6 意見交換の内容（未来の姿）
 - (1) グループ1
 - ・外国人にも魅力的な県
 - ・子供がたくさんいる福島にする
 - ・笑って学べる楽しい学校をつくる
 - ・文化やスポーツを発展させ、いい福島にしたい
 - ・風評被害に負けない県
 - (2) グループ2
 - ・みんなが健康に住めるような町
 - ・子どもや高齢者に優しい県になってほしい
 - ・交通の便がもっとよくなってほしい
 - ・みんなで協力し合える県にしたい
 - ・いろいろな人が来てくれる、魅力的な町
- 7 主な発言
 - ・伝統的なもの、いい所は、大切に残して、たくさんの人に広める
 - ・福島に住んでいても、県の良さをあまり知らない人が多い
 - ・福島のPRのため企業とのコラボ商品を増やしたい
 - ・オリンピックだけで終わらせないなど



高校生ワークショップの結果について

- 1 実施内容 本県の現状について説明を受けた後、グループに分かれワークショップを行い、テーマに対する意見をとりまとめた。
- 2 テーマ
 - (1) 「自分が思う福島の“たからもの”」
 - (2) 「みんなの力で解決したいこと」
 - (3) 「福島の未来をつくるために高校生の私たちができること・すべきこと」
- 3 実施日
 - (1) 郡山会場
日 時：令和元年12月23日（月） 13時～16時30分
会 場：県立郡山北工業高等学校
参加者：33名
 - (2) 会津会場
日 時：令和元年12月24日（火） 13時～16時30分
会 場：県立会津学鳳高等学校
参加者：20名
 - (3) 福島会場
日 時：令和元年12月25日（水） 13時～16時30分
会 場：県立福島明成高等学校
参加者：22名
 - (4) いわき会場
日 時：令和元年12月25日（水） 13時～16時30分
会 場：県いわき合同庁舎
参加者：20名
- 4 内容（主な意見）
 - (1) テーマ「自分が思う福島の“たからもの”」
 - ・豊かな自然（磐梯山、猪苗代湖、尾瀬、水がきれい）
 - ・観光地（鶴ヶ城、アクアマリン、ハワイアンズ、白水阿弥陀堂、須賀川花火、温泉地、五色沼）
 - ・特産品（果物（桃）、米、酪王牛乳、喜多方ラーメン、いか人参、薄皮まんじゅう、ままだーる）
 - ・伝統（漆器、赤ベコ、じゃんがら念仏踊り）
 - ・県民風土（やさしい人柄、親切、偉人（野口英世））
 - ・文化・スポーツ（合唱、プロサッカー）

(2) テーマ「みんなの力で解決したいこと」

- ・震災復興、風評被害
- ・少子高齢化
- ・地球温暖化
- ・質の高い教育による学力向上、学習環境の充実
- ・福祉医療を含めた都市機能の充実、高齢者施設の充実
- ・公共交通機関の充実
- ・ふくしまの遊び場の開発、充実
- ・増える災害への対策
- ・働く場所、職種の充実
- ・自然や農地の管理、活用



(3) テーマ「福島の未来をつくるために高校生の私たちが
できること・すべきこと」

- ・風評被害の払拭のため、受け身にならない。積極的な情報発信
- ・県について自分たちが理解を深め、福島の良さや正しい情報を SNS 等で発信する
- ・地域 PR の CM を高校生で作る
- ・若者の議会をつくり、若い人たちを起点に意見を増やす
- ・自分から声を上げ高校生同士の交流や生徒主体の啓蒙活動
- ・チームとして県内外でみんなで同じ活動をし共有する
- ・新しい伝統をつくる
- ・自分たちが勉強を頑張る！まずは周りよりも自分から！
- ・地域イベントへの参加やボランティア活動
- ・県内就職、進学して地元を支える
- ・自然を大事に自然をアピール



5 主な発言

- ・自分たちが地元を知り、高校生目線の情報発信により新しい福島の魅力を知ってもらおう
- ・震災を経験した若者だからできることを多くの人、次世代へ伝えていく
- ・未来をつくるためには「人との交流」
- ・交通の改善がうまくいけば山間部に住みつつ通勤、通学ができる
- ・災害時の復興に協力できるボランティア団体を高校生から集め社会貢献していく
- ・高校生の考えを述べることで、地域を動かせられるという期待をもてた
- ・学んだことは実行してこそ生きるため情報を共有していく など

大学生ワークショップの結果について

1 実施内容 本県の現状について説明を受けた後、グループに分かれワークショップを行い、テーマに対する意見をとりまとめた。

2 テーマ

- (1) 「自分が思う福島の“たからもの”」
- (2) 「みんなの力で解決したいこと」
- (3) 「福島の未来をつくるために大学生の私たちができること・すべきこと」

3 実施日

(1) 郡山会場

日 時：令和2年1月11日（土） 13時～16時30分

会 場：郡山女子大学

参加者：8名

(2) 福島会場

日 時：令和2年1月15日（水） 13時～16時30分

会 場：国立大学法人福島大学

参加者：25名

(3) いわき会場

日 時：令和2年1月22日（水） 13時～16時30分

会 場：東日本国際大学

参加者：21名

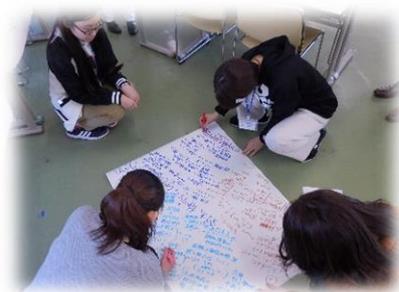
4 内容（主な意見）

(1) テーマ「自分が思う福島の“たからもの”」

- ・日本最大級のロボットテストフィールド
- ・人や方言の温かさ、土地柄と人、助け合いの精神、元気な高齢者
- ・観光施設等（温泉、アクアマリン、ハワイアنز、鶴ヶ城等）
- ・浜・中・会津の多様な人々・文化
- ・特産品（果物、日本酒、米、郷土料理）
- ・元気な高齢者
- ・技術力のある県内企業、工業生産・技術力
- ・豊かな自然（四季ごとの景色）
- ・歴史、文化、芸術（合唱、吹奏楽、演劇等）

(2) テーマ「みんなの力で解決したいこと」

- ・情報発信不足
- ・震災復興、風評払拭
- ・交通アクセスの改善、充実



- ・若者が惹かれる施設や環境
- ・地域間のつながり、交流
- ・歴史的な街並みの保護
- ・健康づくり（減塩取組等）
- ・学べる施設（大学等）の誘致
- ・第一次産業の活性化
- ・バリアフリーの推進
- ・過疎地域の対策（限界集落対策、高齢者移動手段、医療、買い物）
- ・若者の人口流出抑制、地域の担い手不足解消



(3) テーマ「福島の未来をつくるために大学生の私たちが
できること・すべきこと」

- ・自分たちが地域への理解を深め魅力を情報発信
- ・子どもに向けた地域愛着形成の活動
- ・高齢者のケア、若者の集落での活動
- ・大学生目線による地元愛着を育むイベント開催
- ・県内大学生同士が魅力を発信するコミュニティを立ち上げる
- ・地域の担い手不足を補うボランティア活動

5 主な発言

- ・住んでいる人が住んでいてよかったと思える県
- ・自分の夢を語り合いかなえたいと思う県
- ・生活に生きがいを感じられる県
- ・高齢者も若者も過ごしやすい県
- ・産業も観光も人々も活力
- ・今ある資源を最大限活用
- ・浜・中・会津の特徴ある地域特性
- ・一人一人が楽しく誇りをもって生活できる県
- ・人々に活気があり様々な活動にチャレンジができる県
- ・地域とのつながりを大切に感じて生活できる県
- ・集落や伝統、暮らしを維持することが県民の幸せ
- ・お年寄りも現役のように活動する県
- ・優れた技術を持った企業が活発に活動する技術立県
- ・子どもが笑顔で明るく成長できる県
- ・ふるさとのありがたさ、出会いの大切さはだから
- ・若者がわくわくしキラキラと輝いている県
- ・地域に関わって感じる人の温かさ



など